7月･8月の星空

7月24日　月と土星が接近

7 月 24 日の宵から 25 日の明け方、月齢 14 から 15 の満月直後の丸い月と土星が接近して見える。

来月初めに衝を迎える土星は、ほぼ一晩中見えて観察の好期だ。天体望遠鏡で環を観察してみよう。月と土星の左、やや離れたところには木星も明るく見えているので、こちらも楽しみたい。

7 月 30 日 みずがめ座 δ 南流星群が極大

7 月 30 日、みずがめ座 δ 南流星群の活動が極大となる。極大時刻は 15 時ごろと予測されており､30 日の深夜から 31 日の明け方が見やすいタイミングとなる。

下弦前の月が夜空を照らすため条件はあまり良くないが、月から離れた方向を中心に空を見渡せば多少は流れ星が見やすくなる。放射点は木星の近くにあるが、流れ星は空全体に飛ぶので、なるべく広い範囲を眺めるようにしよう。同日には、やぎ座 α 流星群の活動も極大になり、こちらの放射点は土星の近くにある。

7 月下旬から 8 月中旬にかけては、この 2 つの流星群のほかにも複数の流星群が活動するので、全部合わせるとそれなりの数の流れ星が目にできそうだ。8 月 8 日が新月、8 月 13 日はペルセウス座流星群の極大と、この期間は流れ星観察に適しているので、ぜひ星空を見上げてみたい。

8 月 11 日 細い月と金星が接近

8 月 11 日の夕方から宵、西の低空で月齢 3 の細い月と金星が接近して見える。

地球照を伴った幻想的な細い月と金星の共演は、数ある月と惑星の接近の中でも随一の美しさだ。肉眼や双眼鏡で眺めたり、写真に収めたりしてみよう。日の入り 1 時間 30 分後には金星が沈んでしまうので、なるべく早い時間帯に、西の低空が開けたところで観察しよう。次回の共演は 9 月 10 日。

8 月 13 日

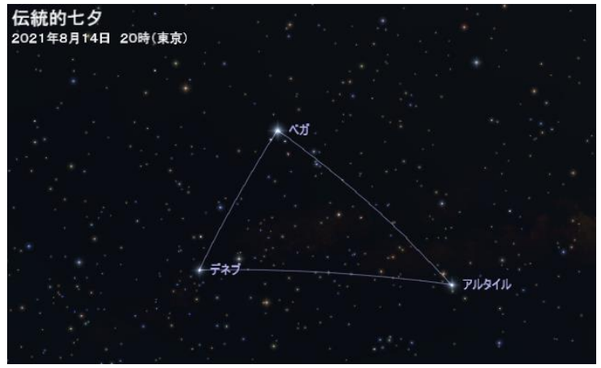
ペルセウス座流星群が極大

8 月 13 日、ペルセウス座流星群の活動が極大となる。極大時刻は明け方④時ごろと予測されているので、12日深夜から 13 日の明け方にかけて多くの流れ星が見られそうだ。

ピークのころには放射点が高く昇り、月明かりの影響がまったくないため、流れ星の観察に絶好の条件が揃っている。もともとの活動規模が大きい流星群なので、見晴らしが良く空が暗いところでは 1 時間あたり 50 個以上の流れ星が見られるかもしれない。郊外でも 20 個程度は見られるだろう。また、数は減るが前後の日にも見ることはできる。

ペルセウス座流星群は、1 月のしぶんぎ座流星群、12 月のふたご座流星群と並ぶ三大流星群の一つだ。速度は速めで、流れ星の後に煙のような痕が見られることも少なくない。母天体はスイフト・タットル彗星。

8 月 14 日 伝統的七夕



旧暦の七月七日は「伝統的七夕（旧七夕）」と呼ばれ、毎年違う日付となる。2021 年の伝統的七夕は 8 月 14 日だ。

空が暗いところなら、月が沈んだあとには織女星（こと座のベガ）と牽牛星（わし座のアルタイル）の間に流れる天の川も見えるだろう。ペルセウス座流星群や木星、土星などと合わせて、夏の星空観察を楽しもう。

モバイルアプリを活用

星空ナビ　無料モバイルアプリ「星空ナビ」は、スマホを空にかざすだけで、その先にある天体などの情報を教えてくれます。ナビゲーション機能を使えばベガやアルタイルの方向まで星空ナビが案内します。

i ステラ･スマートステラシリーズ　iOS 用の「i ステラ」や「i ステラ HD」、アンドロイド用の「スマートステラ」でも、夏の大三角の見え方や周りの星座の名前、木星と土星の位置などが簡単にわかります。